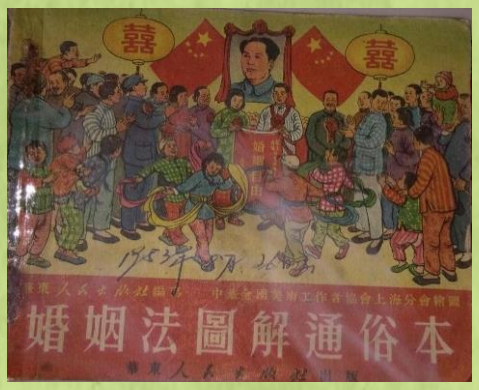
一橋大学国際交流セミナー
中国近現代における「改造」の諸相〈その三〉

一橋大学言語社会研究科では「中国近現代における「改造」の諸相」と題して数回のシンポジウムを開いてきました。中国における「改造」の問題は、言語・社会・文学・歴史にまたがる大きな問題系をなし、近年さまざまな場において議論されています。今回は重慶大学から気鋭の研究者を招き、演劇改造と家庭の改造をテーマにして、議論を深めたいと思います。

鄒羽 ☘ 重慶大学

田漢『関漢卿』：戯劇改造中的五四現代性



☘☘☘

張華 ☘ 重慶大学

民主到家与家庭重構
—以中華人民共和国初『婚姻法』頒布実施為例

通訳あり☘

日時 ☘ 2017年3月27日（月）

午後2時より

場所 ☘ 一橋大学 東キャンパス 国際研究館3階 会議室

- 鄒羽（重慶大学人文社会科学高等研究院教授）
  PhD in University of California Berkeley. 演劇研究、文芸理論専攻。主な論文に、**《狂人日记》的文本空洞--兼论鲁迅小说的语言自我和心理主体、"忠义"《水浒》:文学批评与政治哲学**、Hong Shen's Wilde: Productive Confusion and the Making of Chinese Spoken Drama、Mei Lanfang: Facial Signature and Political Performance in Chinese Opera Filmなど。

- 「田漢『関漢卿』：戯劇改造中的五四現代性」
  現代演劇の研究者は、一般に、田漢の演劇人生にはいくつかの重大な転換点があると考えている。1950年代の演劇改革は、中でも影響の大きな一つである。筆者は研究の過程において、共和国初期、彼の身分が急進的な芸術家から国家の演劇政策の重要な執行者に変化したとはいえ、しかしなお五四左翼の立場から当時の国家の伝統的演劇、とくにいわゆる人民性の内容の重視を、認識・解釈しようとしていたことに気がついた。彼の演劇人生の最後の成功作である『関漢卿』の基本的なディスコース・ストラテジーは、中国伝統演劇の社会的需要の枠組みの中に、現代演劇のリソースを見出すことであった。

- 張華（重慶大学人文社会科学高等研究院講師）
  歴史学博士（中国人民大学）。中国近代思想文化史、社会史専攻。主な論文に、**"去民间"：以张竞生与费孝通乡村研究为例、美的文化实践：也谈《性史》的思想史内涵、美的三个层次：张竞生乌托邦建构中的美学内涵、民国时期女性美的科学建构（1920-1930）：以"天乳运动"为中心的讨论**など。

- 「民主到家与家庭重構」
  1951年、現代中国の婚姻、家族制度に大きな影響を与えた中華人民共和国「婚姻法」が公布された。「婚姻法」は、公布以来、多くの研究者に注目され、解釈されてきたが、多くはこの法律の新しさの側面を強調してきた。近年の研究者は、地域社会史の視角から、この法律の実施の過程が単純な新旧交代ではなく、新しい法律と古い伝統のあいだの不断の相互作用のプロセスであったことを見出している。しかしこれまでの研究では、依然として、この法律が実施されたあとの家庭の再構築それ自体の位置づけと意味に関する、明確な意識からの議論は不足している。本研究は、この法律が重慶で貫徹され、実施されたプロセスを例として、中華人民共和国建設期における家庭の定義と再構築の様相について論じる。家庭は、新しい精神によって改造され、さらに新しい個人ー家ー国の連続的統一体に編成され、そしてその再編のプロセスが、家庭の新しい「理ー礼」伝統の出現をもたらしたのであった。